

おかちまち たいとう

台東区立御徒町台東中学校 学校だより 第1号

令和5年4月12日(水)

校長 福沢 俊之

TEL 03 (3831) 3787

学校ホームページ



<http://www.taitocity.net/okachimachitaitou-jhs/>

↑更新中



令和5年度の始まりにあたって

校長 福沢俊之

先週6日に始業式、7日に入学式を行い、いよいよ令和5年度が始まりました。今年度は、1年107名、2年生88名、3年生135名、計330名でのスタートになります。

新型コロナウイルスが世界中に広がってすでに3年が過ぎました。最初の年は、始業式も入学式もできませんでした。その一年後、私は始業式で、「予定通り始業式を迎えることができたことは、何よりもうれしい」が、「新規の感染者数は増加傾向にあり、まだまだ気を緩めることはできない状況」と話しました。昨年度には、「感染症の流行から2年以上が過ぎた今も、完全収束の見通しも見えない。」と話しています。そして今年、先月13日には厚生労働省から、「マスクの着用は、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断が基本」とする方針が示されました。区内の小中学校も、今年度から、「マスクの着用は求めないことを基本とする。着ける、着けない、は、個人の自由とする。」ことになります。ただし、感染リスクが高いとされる学習活動では留意することがあります。詳細については、担任や教科担当から説明をまいります。また、保健だよりにも掲載しておりますので、ご確認ください。思えばこの三年間には、「マスクをつけましょう」「マスクを外しましょう」といった相反する風潮が混在していた時期もありました。しかしこれからは「個人の自由」となりますが、その「自由」とはどういう意味なのだろうか、を考えてみてはどうでしょうか。「自由」という言葉の響きはとても良いのですが、社会生活を送る中での「自由」とは何だろうか、を考えることには意味があると思っています。

先日、3日には、多くの企業で入社式が行われました。私は、各社の入社式でそれぞれの社長や経営トップが新入社員に向けてどのような話をするのか、を毎年楽しみにしています。それはその話の内容が、今の社会でどのような人材を求めているのかを反映していると考えからです。今年も、工業、電気、化学、IT企業、商社、保険会社など、ホームページに掲載されている十数社の入社式での社長の挨拶文を読みました。共通していると思ったことは、それぞれの会社に見合った専門性を高めましょう、資質・能力を伸ばすよう努力しましょうということではない、ということでした。多くの社長は、「朝早く起きること」「健康でいること」などの生活習慣、「志を高く」「可能性を信じて」「本気で取り組み」「チャレンジせよ」「失敗を恐れるな」などの前向きな姿勢、「コミュニケーションを大切に」「対話をしよう」「一人で悩まず声を上げて」といった他者との関わりなど、人としての基本的な生き方、といってよい内容を話していました。社会全体が、激しい変化や厳しい環境の中にあって、社会人一年生に求められていることは、まさに中学生の皆さんに求められている基本的なことと同じだと感じました。

それを踏まえた上で、あらためて始業式でも入学式でも、本校の生徒に伝えたのは、「いつでも どこでも 何度でも」、相手の眼を見て、笑顔であいさつが交わされる学校にしていきましょう、ということです。お互いに認め合える関係を築くための有効な手立てであり、何よりも学校全体をよい雰囲気に包んでくれる、そして、そのような雰囲気の学校にすることが、一人一人が過ごしやすい学校づくりにもつながると思っています。

1年間、どうぞよろしくお願いいたします。